

第十一回

# 十湖賞

俳句大会  
入選句集



平成31年2月発行

<発行元> 浜松市東区俳句の里づくり事業実行委員会

<事務局> 浜松市東区役所区振興課内

浜松市東区流通元町20番3号

TEL 053-424-0115

Eメール c-shinko@city.hamamatsu.shizuoka.jp

■主催／浜松市東区俳句の里づくり事業実行委員会、浜松市

■後援／静岡県教育委員会、浜松市教育委員会、静岡県俳句協会、中日新聞東海本社、静岡新聞社、静岡放送、FM1160、浜松テレビ株式会社

# 「十湖賞」と「浜松市東区俳句の里づくり事業」

松島十湖翁は江戸時代末期、現在の浜松市東区豊西町に生まれた俳人にして政治家、さらには地域貢献に務めた篤志家です。生涯に詠んだ句は七千句とも言われ、全国各地に多くの門人がいました。

十湖翁の俳句は、松尾芭蕉からの蕉風を継承すべく、花鳥風月といわれる春夏秋冬・四季折々の自然、その中ででの生活を詠む伝統的なものです。

「はま松は出世城なり初松魚」は、「出世の街・浜松」を象徴した、浜松を誇る気持ちを詠んだ句です。

東区では、こうした十湖翁の遺徳を称えるとともに、「郷土を愛する心」を今に伝えるべく「十湖賞」俳句大会を開催しています。

元来、東区内には多くの句碑群があり、多くの俳人も輩出していることから、「俳句の里」としての側面を垣間見ることができます。

浜松市東区及び実行委員会では、このような背景のもと、「浜松市東区俳句の里づくり事業」を行っています。

## 第十一回「十湖賞」俳句大会入選句集

平成31年2月11日(月・祝)

於 浜松市総合産業展示館 北館1号ホール



### 目次

ごあいさつ	2・3
十湖大賞	4
十湖賞	5
東区長賞	
県教育長賞	6
市教育長賞	
特選	7
佳作	8・9
奨励賞	10～13

### 選者

九鬼あきゑ氏

(「椎」主宰)

笹瀬節子氏

(「みづうみ」主宰)

鈴木裕之氏

(「海坂」主宰)

高柳克弘氏

(「鷹」編集長)

※五十音順

### 第十一回「十湖賞」俳句大会投句実績

一般の部		高校生の部		中学生の部		小学生の部		全 体		一般の部・地域別	
人数	投句数	人数	投句数	人数	投句数	人数	投句数	人数	投句数	地域	投句数
492	975	1,170	1,931	1,758	2,928	1,902	3,152	5,322	8,986	市内	577
										県内(浜松市外)	107
										県外	291
										合計	975

※募集期間：平成30年7月2日(月)～10月1日(月)

委員長 松島知次

第十一回「十湖賞」俳句大会は、募集開始から締め切りまで、3か月あまりという僅かの期間でしたが、全体で5,322人から8,986句の投句をいただきました。

身近に感じた自然や生活の中の感動を詠んだ選りすぐりの句をご応募いただき、作者の皆様におかれましては新たな感動や発見があつたのではないかと思います。

浜松市東区俳句の里づくり事業実行委員会では、これからも俳句を通じ、郷土を誇り愛する気持ちを育むとともに、俳句文化の振興を図るため創意工夫を重ねてまいります。

終わりに、入選された皆様にご心よりお祝い申し上げますとともに、入選句を選考いただきました選者の皆様、並びに事業推進に係りご尽力いただきました関係者の皆様へ厚くお礼を申し上げますとともに、今後ますますのご活躍、ご多幸をお祈り申し上げます。挨拶とさせていただきます。

浜松市東区長 鈴木知子

浜松市東区では、現在の東区豊西町に生まれ、明治・大正時代に活躍した俳人松島十湖翁により培われた俳句の盛んな地域性を活かし、平成十九年度から「俳句の里づくり事業」を実施しています。

この事業では、「俳句の里づくり」として、全国に投句を呼び掛ける「十湖賞」俳句大会を実施するとともに、区内の児童生徒を対象に、俳句に親しむ機会を提供する「小中高校俳句講座」などを実施し、地域の俳句文化の振興を図っており、昨年度で十周年を迎え、東区が「俳句の里」として根付いてきております。これからも俳句を通じた様々な取り組みを行い、地域の皆様には郷土への誇りと愛着を持っていただけるよう努めてまいります。

結びにあたり、「十湖賞」俳句大会にご応募いただいた皆様、選考していただきました選者の皆様、そして本年度の事業に携わっていただいた全ての皆様に深く感謝を申し上げます。挨拶とさせていただきます。



## 十湖大賞・十湖賞〈一般の部〉

どこまでがこの世螢のふと消えて

浜松市東区 越川 都

評：螢狩での景。奥深い山の闇より螢が現れては消えてゆく。いったいこの闇は、どこまで続いているのだろうか。

螢はあの世とこの世を自由に飛びかっているのだろうか。異次元の世界をも想像させる時空の拡がりのある秀句。

(九鬼あきゑ)

## 十湖賞

〈高校生の部〉 こんがりと焼けた妹見て笑う

浜北西高校三年 鈴木愛佳

評：妹は、ふだんから身近にいる、見慣れた存在だ。それが、海やプールに行ったある日、日焼けをしてすっかり変わってしまったというのが面白い。ある夏の家族の物語として、宝箱にしまっておきたい一句である。(高柳克弘)

〈中学生の部〉 泳ぐ時空飛ぶとんぼとすれちがう

与進中学校一年 山下華乃

評：「すれちがう」とは、互いに触れ合うほど近くを通って、それぞれ反対の方向へ行くということで、空を見上げたその一瞬を捉えた。流石中学生らしい詩心だ。中学生らしい言葉で俳句を作るといふ姿勢が嬉しいのである。(笹瀬節子)

〈小学生の部〉 帰り道ぼくより急ぐ揚羽蝶

中郡小学校六年 奥津仁

評：揚羽蝶の表現が実に面白く伝わってくる。下校中の僕より先にどこを目ざしているのか。生き物との一瞬のふれ合いはあるが率直に描かれ、魅力的に。揚羽蝶もさぞ喜んでいてくれるに違いない。(鈴木裕之)

## 東区長賞

〈一般の部〉

十湖の書紐解く月の書見台

大分県大分市 小野 智輔

評!! 下五「書見」とは、書物を読むことで、月夜に紐解くにふさわしい書見台があったのであろう。さて、「十湖の書」とは、「十湖発句集」に違いなし。発句や逸話など納められ「あとがき」の十湖の末のお孫さまのエピソードなど楽しい。(笹瀬節子)

## 県教育長賞

〈高校生の部〉

雪道に揺らぐ外灯乱反射

浜松北高校三年 清水 かつお

評!! 北遠で接した雪の景か、旅先で遭遇した雪との出会いを描写しつつ、乱反射外灯の状況を句に詠みきって完成させた。「乱反射」という力強い表現を下五に据えているのも作者の揺れ動く心情がよく出ている。(鈴木裕之)

## 市教育長賞

〈中学生の部〉

宿題がうちわのむこうでわめいてる

丸塚中学校一年 須藤 悠吾

評!! 夏休み、うちわでのんびりと涼んでいる。しかし、心には、たまった宿題のことも引つかかっている。まるで宿題に大声で呼ばれている気がするのだ。宿題に声があるかのように表現したことで、愉快な一句となった。(高柳克弘)

〈小学生の部〉

陸上で大きなにじが見えてきた

有玉小学校五年 笹田 陽和

評!! 虹はよく雨あがりなどに見られる現象です。大気中に浮遊している水滴に日光があたり光の分散を生じたもの。外側は赤、内側は紫色に見える。この句のポイントは「大きな虹」と捉えたことです。明るい未来を感じる一句。(九鬼あきゑ)

## 特選



〈一般の部〉

ここだけの話聞いてる水中花

愛知県名古屋市長 稲熊 明美

土塊を愛し愛され鋏始

埼玉県所沢市長 志村 美好

〈高校生の部〉

ゆく夏の風のぼりゆく千枚田

浜松学芸高校二年 原田 悠平

天高し兄の大きな運動靴

浜北西高校三年 内山 亜結

〈中学生の部〉

風薫る木陰でめくる愛読書

北浜東部中学校二年 山田 優来

先輩と呼ぶのになれぬ春の暮

丸塚中学校一年 千葉 心暖

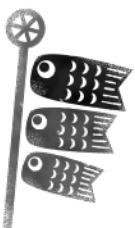
〈小学生の部〉

ノックうけ汗でよごれたユニフォーム

積志小学校五年 村木 貴獅

晴天の真下でおよぐこいのぼり

中郡小学校五年 石津 悠生



# 佳作

## △一般の部▽

落蟬や大往生の白い腹

浜松市中区 田中信昭

大夕焼十湖の町の機の子

浜松市浜北区 小栗百り子

懸命に生きてる父母の墓洗ふ

愛媛県松山市 竹内生子

春雷やつなぐ手と手の走りだす

浜松市北区 金子千江子

人を待つ浜朴揺れて海の青

浜松市東区 山本佳須美

「カツカレーご飯多めで！」春の雪

浜松市中区 鈴木裕之

## △中学生の部▽

猫の子の濡れる瞳に空の青

与進中学校三年 菱木乙乃

後退りして待つ子等のねずみ花火

西遠女子学園中学校三年 中村友美

いつのまに姉の背抜いた夏休み

八幡中学校一年 登柊祐

いわし雲空をとりまく防護壁

中郡中学校一年 村木孝陽

消しゴムを落としてせみに笑われる

丸塚中学校一年 小杉優芽

友達と夕焼けを見る丘の上

笠井中学校二年 小栗愛子



## △高校生の部▽

朝読書開いてみたら銀杏の葉

浜松東高校三年 杉浦さくら

群青の空に散りゆく紅葉かな

浜北西高校二年 福井遥名

道端に咲いたコスモス耳飾り

浜松東高校一年 齋藤優奈

決戦日セミの声援背にうけて

浜北西高校二年 波田野僚穂

秋の風袴の裾をなびかせる

浜北西高校一年 前島歩南

まうしろをくらげがおよぐ気がしてる

西遠女子学園高校一年 木俣香織

## △小学生の部▽

雨がやみしずくが垂れる夏野かな

中郡小学校六年 尾藤隆太郎

山の中まいごになったの夏帽子

中郡小学校六年 岩崎美優

竹落葉ふみしめ鳥の声を聞く

与進小学校六年 中根愛海

弟と見上げる空に流れ星

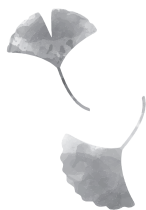
蒲小学校六年 鈴木茂文

金魚鉢のぞいてみればゆるる部屋

中郡小学校五年 笠間葵

友達とメロンでかんぱい秋祭り

有玉小学校五年 國松史華



# 奨励賞

## △一般の部▽

山よりの水を煮炊きに蛸とぶ

浜松市中区

原百合子

遠州灘日矢走り来るお元日

浜松市西区

野田俊枝

秋暑し土の匂ひの閻魔堂

榛原郡吉田町

畑絹枝

花芙蓉頼ふつくらと母となる

浜松市中区

吉川摩里子

子等帰り卯月曇の床を拭く

浜松市中区

栗田直子

零余子飯優しき人は人を寄す

浜松市南区

伊藤久子

銚奔る浜名の湖の大西日

周智郡森町

大杉修次

鬼やんま風に真向かひ風になる

浜松市南区

渡辺きぬ代

海光の波よりいでし秋燕

山梨県甲府市

小川保子

矢車を囃す天竜川の風

浜松市浜北区

中川正男

## △高校生の部▽

初景色思い新たに我歩む

加藤学園高校三年

高橋明斗

桜咲き意味なく外へ散歩かな

浜北西高校三年

岡田純佳

ひまわりに重なる祖母のあの笑顔

浜北西高校三年

坂本祥華

原爆忌静かに語るあのをときを

浜松東高校一年

鈴木香帆

陽炎がゆらめく橋を渡る日々

浜松東高校一年

山添瑛光

初だこよ高々とゆけどこまでも

浜松東高校二年

石川詩音

新人戦夏の努力が実を結ぶ

浜北西高校二年

市川頼那

夕ご飯匂の香りの秋刀魚かな

浜松東高校一年

杉山亮太

新雪をだまってみてる祖母と猫

浜北西高校一年

村松隼門



野分ゆき少女の靴は木の陰に

京都府京都市

浦沢映子

コスモスの真ん中にある無人駅

千葉県南房総市

田沼美智子

そよぐたび風美しき青田かな

福岡県宗像市

藤崎由希子

つつがなき今日を集めて落葉焚く

神奈川県伊勢原市

高梨裕

昭和の日一品多き父の膳

浜松市中区

稲津とし子

ふかし蕎湯気ほつこりと核いらぬ

浜松市中区

伊藤サト江

桜まじ眼閉ぢたるゴリラかな

浜松市北区

宮本葉子

ルージユ引きチークほんのり古希の秋

伊東市

相川慶子

シベリアへ羽全開の白鳥座

浜松市中区

関野由紀子

油照り暗渠を走る水の音

浜松市中区

佐藤永典

青空に峨峨とそびえる入道雲

浜北西高校一年

崎山蒼志

雷がノートを照らすテスト前

西遠女子学園高校一年

関繭子

向日葵に背を向け前に歩き出す

浜北西高校三年

大西春佳

見下ろしてモノクロの街夏来る

浜松東高校一年

今田舞奈

ひとやすみ林道脇の露草よ

浜北西高校二年

鈴木琴葉

耳を突くかん高き声夏木立

浜松東高校一年

金井晟也

蓑虫や寝坊しちやっても知らないぞ

浜北西高校三年

鈴木脩司

青い空木を見てみると早梅か

浜松東高校一年

小野祥馬

静寂の小川にひかる蛸の尾

天竜高校春野校舎一年

河合藍璃



# 奨励賞



## 小学生の部

暗闇で初めて気付く星月夜

丸塚中学校三年  
大久保 里菜

ボール追い一球一魂夏の風

丸塚中学校一年  
佐藤 麻帆  
中郡中学校一年

おやすみと三つそろうた雪だるま

北浜東部中学校二年  
森下 陽斗

セミが鳴き朝があわててやってくる

赤とんぼ君の世界はどんな色

北浜東部中学校三年  
ポルドニヤック  
アリチア

カーネーションいつもは言えぬありがとう

丸塚中学校二年  
飯尾 璃

ひまわりがゆれてシャンシャン音でそう

笠井中学校二年  
神谷 汐里

春の風茶畑とおり歩みよる

与進中学校二年  
木村 彩椰

原爆忌忘れてならぬ命の日

丸塚中学校二年  
金原 世奈

夏服やふわりと軽く心まで

静大付属浜松中学校三年  
小嶋 英里圭

## 小学生の部

せせらぎの静かな音にすずみけり

有玉小学校六年  
日内地 諒汰

六年生全て最後の秋祭り

大瀬小学校六年  
曾布川 航太

夏の風全ての音をつれてくる

中郡小学校六年  
小杉 亮介

試験前深夜ラジオで知る冬至

静大付属浜松小学校六年  
久米 ここ愛

校長室蠅取り草が大活やく

中郡小学校六年  
柴田 逸矢

あつくてもどんな時でもねことねる

笠井小学校二年  
倉嶋 乙希

ピアノひく赤き指先冬が来る

富塚西小学校六年  
池谷 英恵

雲の峰町を目指して大ぼうけん

中郡小学校五年  
加藤 慎也

水辺には星になりたいホタルたち

豊西小学校六年  
服部 真和

秋刀魚焼く海のおいがひろがった

与進北小学校六年  
星野 圭唯

坂道を友とラムネと自転車と

笠井中学校三年  
池田 夏実

ひまわりは台風なんぞと胸を張る

与進中学校一年  
増田 正晃

冬の池氷に映る自分の目

中郡中学校一年  
鈴木 美佑

蝉の声負けじと僕も面小手胴

丸塚中学校一年  
積志中学校一年  
和田 篤典

兜虫君の勇姿にあこがれる

夏的大海ポツンと一つの白い船

丸塚中学校二年  
守屋 颯真

月涼しころころ笑う君がいる

丸塚中学校二年  
萩原 侑也

体育館ひよろりと夏の風入る

丸塚中学校一年  
鈴木 玲

川の字に並んで昼寝祖母の家

丸塚中学校三年  
吉田 めぐる

つつじ咲く雨の向こうに眠る古都

笠井中学校三年  
鈴木 彩日



もくもくと目立ちたがり屋の入道雲

与進小学校五年  
上田 更咲

はやおきはせみとはじまるよーいどん

北浜南小学校一年  
乗松 聖羅

ねこの子が怖がるふん水はねる水

和田東小学校六年  
神谷 成秀

冬の精けっしょう作る音がする

北浜南小学校三年  
鈴木 眞生

富士の山しかけ花火で金色に

和田小学校六年  
鈴木 陽菜多

風鈴のやさしい風を呼んでくる

和田小学校六年  
土井 伽夏

雪だるまああバケツだけ落ちている

和田小学校六年  
平野 健斗

夏の星ギリシャの神話の話など

有玉小学校六年  
中村 萌愛

かぶと虫ライバル見つけつの向ける

和田東小学校六年  
長谷川 心美

滝の水強く弱くで曲がり落ち

和田小学校六年  
平井 緩奈